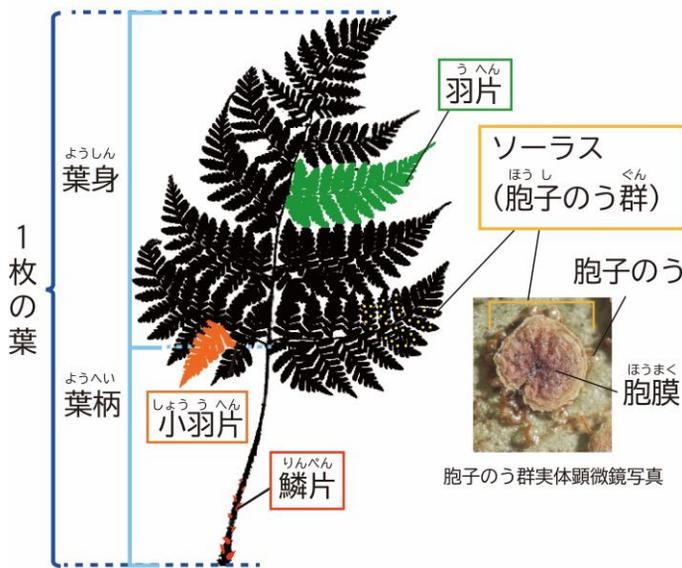


シダの世界へようこそ

シダ植物には様々な形の葉があるのをご存じでしょうか。専門的な図鑑は科や属など分類群ごとにまとめられていますが、初心者向けの図鑑の多くは、シダを葉の形ごとにまとめています。標本画像を見てシダの葉の形を観察してみましょう。

基本的な用語の説明

■シダ植物の葉の各部分の呼び方



ソーラスは葉の裏についていることが多いよ。



■栄養葉(えいようよう)と孢子葉(ほうしよう)

シダ植物の多くは、1株のなかに子孫を残すため孢子つける葉(孢子葉)と孢子をつけずもっぱら光合成を行う通常の葉(栄養葉)の2種類の葉を持ちます。栄養葉と孢子葉が同じ形をしているものと違う形をしているものがあります。

同形

栄養葉と孢子葉が同じ形



例) イワデンダ

二形

栄養葉と孢子葉が違う形



例) キジノオシダ

部分二形

孢子がついている羽片と孢子がついていない羽片の形が異なる



例) オニゼンマイ

シダ植物のいろいろな形

初心者向けの図鑑は、よくある形のシダ(一般的な形のシダ)と変わった形のシダ(コケのようなシダや葉の小さなシダなど)に分けていることが多いです。また、よくある形のシダは葉身の切れ込みで分けているものが多いです。

よくある形のシダ

3-6ページで、
標本画像を見比べて
みよう



葉の形(葉の切れ込みや
羽片の切れ込みの違い)を
見比べてみよう!



変わった形のシダ



7-9ページで、
標本画像を見比べて
みよう

よくある形のシダ①

学名および科名は海老原淳(2016)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ』
と海老原淳(2017)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ』に従った。



ヒトツバ ウラボシ科
Pyrrosia lingua (Thunb.) Farw.

栄養葉と孢子葉：二形（栄養葉より孢子葉が細長い）
国内分布：本州（関東地方以西）～九州・琉球
生育環境：やや乾燥気味の岩上, 崖地, 樹幹に着生
神奈川県内では南部沿海地に稀
資料番号：KPM-NA0160623



ミツデウラボシ ウラボシ科
Selligeyea hastata (Thunb.) Fraser-Jenk.

栄養葉と孢子葉：同形
国内分布：北海道（釧路, 日高, 胆振, 渡島）～九州・琉球
生育環境：日当たりの良い斜面や崖地, 石垣など
神奈川県内では各地で見られる
資料番号：KPM-NA0119357



よくある形のシダ②

学名および科名は海老原淳(2016)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ』
と海老原淳(2017)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ』に従った。



アオネカズラ ウラボシ科
Goniophlebium niponicum (Mett.) Bedd.

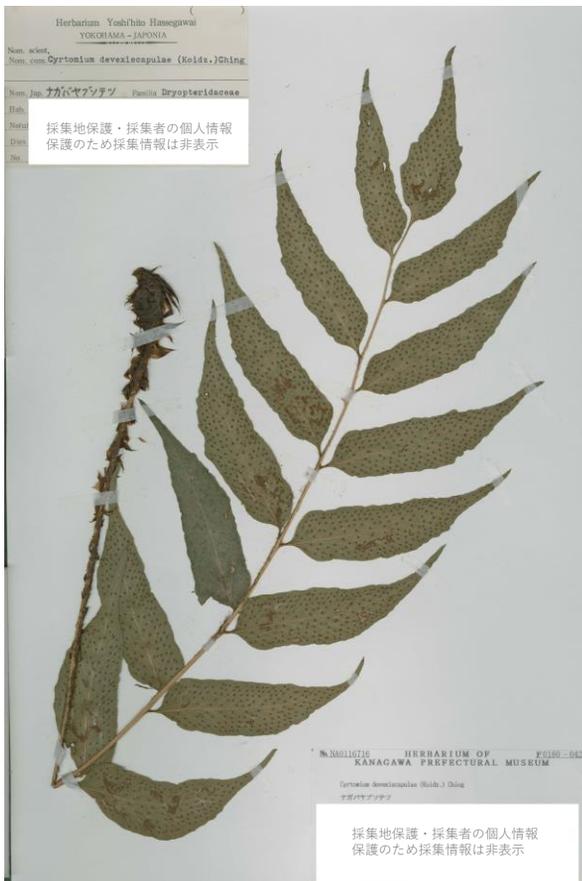
栄養葉と孢子葉：同形

国内分布：本州（関東地方以西）～九州

生育環境：低山の樹幹, 岩上, 岩壁に着生

神奈川県内では箱根や湯河原に稀. 神奈川県レッドリスト〈植物編〉2020で絶滅危惧IB類とされた.

番号： KPM-NA0102166



ナガバヤブソテツ オシダ科
Cyrtomium devexiscapulae (Koidz.) Ching

栄養葉と孢子葉：同形

国内分布：本州～九州・琉球(沖縄諸島)

生息環境：樹林内や林縁, 水路等の石組みの間など
神奈川県内では冷温帯を除く各地で見られる

資料番号： KPM-NA0116716



よくある形のシダ③

学名および科名は海老原淳(2016)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ』
と海老原淳(2017)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ』に従った。



フモトシダ コバノイシカグマ科

Microlepia marginata (Panzer ex Houtt.) C. Chr.

栄養葉と孢子葉：同形

国内分布：本州（秋田以南）～九州・琉球

生育環境：樹林内, 林縁のやや乾いたところ

神奈川県内では冷温帯を除くほぼ全域に見られる

資料番号：KPM-NA0168618



ゼンマイ ゼンマイ科

Osmunda japonica Thunb.

栄養葉と孢子葉：二形

国内分布：北海道～九州・琉球（久米島以北）

生育環境：草地や樹林内に生える

神奈川県内では普通に見られる

資料番号：KPM-NA0179178



よくある形のシダ④

学名および科名は海老原淳(2016)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ』
と海老原淳(2017)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ』に従った。



イヌワラビ

メシダ科

Anisocampium niponicum (Mett.) Y. C. Liu,
W. L. Chiou et M. Kato

栄養葉と孢子葉：やや二形

国内分布：北海道～九州・屋久島

生育環境：市街地～丘陵地, 山地にまで広く生じる
神奈川県内では普通に見られる

資料番号：KPM-NA0104181

栄養葉と孢子葉の違いがはっきりしないものは「やや二形」と言われます。



ホソバナライシダ

オシダ科

Arachniodes borealis Seriz.

栄養葉と孢子葉：同形

国内分布：北海道～九州（福岡・佐賀）

生育環境：山地の樹林内

神奈川県内では丘陵地や山地など各地で見られる

資料番号：KPM-NA0149688



変わった形のシダ①

学名および科名は海老原淳(2016)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ』
と海老原淳(2017)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ』に従った。



スギナ トクサ科

Equisetum arvense L.

栄養葉と胞子葉：二形（胞子茎・栄養茎という）

国内分布：北海道～九州・琉球（種子島・屋久島）

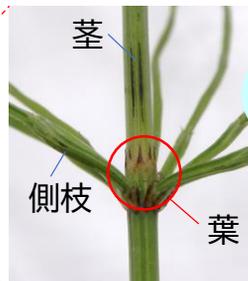
生育環境：山野, 路傍, 市街地などにごく普通

神奈川県内では各地に普通に見られる

資料番号：KPM-NA0294350



スギナの葉はどこ？



一般に「袴（はかま）」
と呼ばれている部分が
葉にあたります。

葉は小さなくさび形で茎の周りに車輪状につきます。葉の根元は癒合し、癒合した部分を葉鞘、先の分かれている部分を葉片といいます。

変わった形のシダ②

学名および科名は海老原淳(2016)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ』
と海老原淳(2017)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ』に従った。



ヒカゲノカズラ ヒカゲノカズラ科

Lycopodium clavatum L. var. *nipponicum* Nakai

栄養葉と孢子葉：二形(側枝の先に孢子のう穂がつく)

国内分布：北海道～九州・琉球(屋久島, 奄美大島)

生育環境：山地の湿った樹林内, 向陽の斜面や崖地

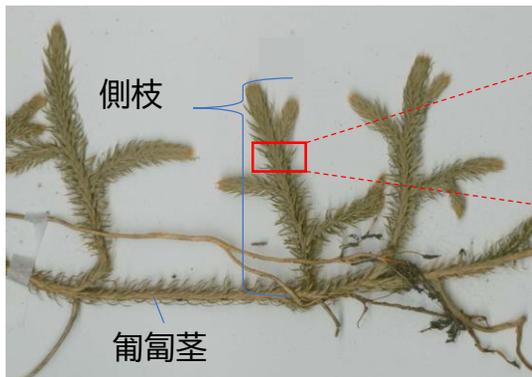
神奈川県内では主に箱根, 湯河原, 小田原に分布,

丘陵地では極めて稀

資料番号：KPM-NA0127262



ヒカゲノカズラの葉はどこ？



葉
針のような小さな葉が
たくさんついています。

変わった形のシダ③

学名および科名は海老原淳(2016)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ』
と海老原淳(2017)『日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ』に従った。



カニクサ カニクサ科

Lygodium japonicum (Thunb.) Sw.

栄養葉と孢子葉：部分二形

国内分布：本州（福島・新潟以南）～九州・琉球

生育環境：日当たりのよい崖地, 林縁, 石垣など

神奈川県内では冷温帯を除く各地に普通に見られる

資料番号： KPM-NA0290293

この標本は1枚の葉の一部です。カニクサの葉は長さが2m近くなることもあります。



ウチワゴケ コケシノブ科

Crepidomanes minutum (Blume) K. Iwats.

栄養葉と孢子葉：同形

国内分布：北海道～九州・琉球

生育環境：山地樹林内の岩上や樹幹上に着生

神奈川県内では丹沢, 箱根, 小仏山地に普通, 三浦半島と大磯丘陵に点在, 平野部では稀

資料番号： KPM-NA0100398



シダ植物を図鑑で調べる

シダ植物の名前を調べるときは、まずは葉の形に着目してみましょう。その次は、ソーラス(胞子のう群)の形や付き方、鱗片の色や形を見ていきます。

今回ご紹介したシダの一部は箱根周辺でも見られます。気になるシダを見つけたら、図鑑で調べてみましょう。小さな図鑑には身近なシダがたくさん載っていますが、載っていないものもたくさんあります。詳しく調べてみたくなったら、専門的な図鑑も開いてみましょう。

初心者向けの図鑑の例

『くらべてわかるシダ』桶川修著・大作晃一写真 山と溪谷社 2020年発行

『シダハンドブック』北川淑子著・林将之スキャン写真 文一総合出版 2007年発行

『写真でわかるシダ図鑑』池畑怜伸著 トンボ出版 2006年発行(フィールド版2016年発行)

など

専門的な図鑑の例

『日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ』海老原淳著 学研プラス 2016年発行

『日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ』海老原淳著 学研プラス 2017年発行

『日本の野生植物 シダ』岩槻邦男著 平凡社 1992年発行

など

